



検索・中野あきと

# みどりと清流

日本共産党市議会議員 中野あきと事務所ニュース

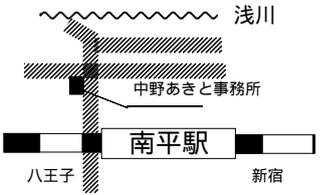
〒191-0041 日野市南平6-25-1 (南平ビル1階)

(電話・FAX 042-599-3350) 発行責任者 小山敏正

2020年  
4月発行

第208号

法律・生活相談など  
お気軽にお立ち寄り下さい



## 新型コロナウイルス感染症から 命と暮らし、営業を守るために お悩みやご心配ごと、 遠慮なくご相談ください

日本共産党市議会議員 中野あきと  
携帯 090-5329-7859

日本共産党市議団は、市民の皆さんから寄せられた声や調査に基づいて日野市への申し入れを繰り返し行い、また3月市議会でも提案を重ねてきました。主な内容を、日野市の動きとともに紹介します。

「緊急事態宣言」が出され、さまざまな不安をお持ちの方も少なくないのではと思います。  
感染への不安、子どもの学校のこと、仕事や賃金のこと、今後の生活のことなど心配なことがありましたらご相談ください。関係団体や機関なども連携し、解決へ向けて精一杯取り組みます。

休校にともない、必要な子どもたちへ居場所、給食の提供を

3月3日から市内の小中学校は臨時休校になりました。家庭にさまざまな事情を抱えている子どもたちに対し、市として居場所や給食の提供を行うべきだと申し入れを重ねました。

また予算委員会では、約1割の家庭が食費・食事を指摘し給食提供を求め、市長も「今後はしっかりと考えていきたい」との答弁を行いました。

5月6日までの休校延長にあたっては、居場所の確保とともに必要な子どもたちへ給食(食事)が提供されることになりました。

市民の不安に応え、市内でのPCR検査体制の確立を

現在、新型コロナウイルス感染に関する相談は、市内では健康課の保健師によって行われており、感染の疑いがある場合には南多摩保健所に連絡することになっています。

一方、市立病院でPCR検査をできる体制が整い、医師の診断と判断で検査が行われるようになり、地域の診療所、クリニックとの

連携も始まっています。そうした状況を踏まえ、健康課での相談で疑いがある方は、直接市立病院の医師による診断へとつなげて必要な方はスムーズにPCR検査が受けられるように体制を確立する必要があると申し入れました。

学校給食への納入業者の損失補償、地域の商店・商店街への支援を

休校に伴う学校給食の休止で、野菜や肉、豆腐などを学校給食へ納入している業者の収入が絶たれ、深刻な相談も寄せられました。予算委員会でも、長年、学校給食を支えてきたこうした市内業者が急激な収入減で苦しんでおり、市として収入補償を行い支援すべきだと提案、市長も「そうした業者を支えるのが市の役



### 南平2丁目で斜面の桜が倒木

降雪があった3月29日、南平2丁目「みなみが丘」住宅の斜面にあった桜の大木が、花をつけた姿で倒れ道路を遮断しました。翌30日、中野あきと市議が現地調査を行いました。他にも10本ほど桜が植えられており、安全対策が望まれます。



卒業式場に入れず、校庭で待機する父母 (3月19日 七生中)



割。何ができるか努力はしたい」と答弁しました。また、売り上げ減で苦しい状況にある市内商店等を応援するために、休止した「カワセミ商品券」の再開を提案しました。引き続き、市内商店、中小事業者の営業支援へ全力をつくします。

### 短信

寒い時期や風邪のときだけだったマスク。悪質ウイルスに立ち向かう今は、日常の必需品となった。電車でもバスでもみんなマスク掛け。こぞって身を守る姿は、戦時下の防空頭巾を連想する。歴史に残る光景となるだろう。掛かりつけの医師が言っていた。日本の医療は切り詰められず「溜め」を失い、ゆとりが全く無いからこんな時は怖いと、高幡不動駅の北側にある「市立福祉支援センター」は以前、日野保健所だった。多摩市永山にある南多摩保健所に統合されてしまった。感染者が出ればその接触者を追うのは保健所の仕事。日野で出た一人の感染者の場合は、80人に及んだとか。人手不足のおり関係者の苦闘はいかばかりか福祉も、教育も、そして医療も、目先の損得にとらわれ、まるで競争するように切り詰められてきた。利潤第一、「効率」一辺倒……。ウイルス禍のいま、社会のありようが鋭く問われている。浅川の市営住宅前の桜は今年も見事。ベビーカーの脇で母さんがスマホを上に向けていた。花を見る人と「花見なんかやめろ」と、とがめる人。とが、言い合いになったという話を市営住宅の人から聞いた。どうやら闘いは長期戦の様相である。ストレスが溜まる日々が続く。お互い折り合いをつけながら乗り切りたいものだ。趣味は手芸という人の、洒落た「柄マスク」に心が和んだ。マスクでお洒落を……。そんなゆとりを大切にしたい。

# 元副市長の兼業問題をめぐる二つの疑惑

違法な兼業を続けていた河内久男元副市長。昨年3月までの7年間に、総額2億5000万円以上の報酬を受け取っていた事実が明らかになりました。そのうち1億7000万円は、川辺堀之内区画整理組合の理事長相談役として受け取っていた報酬です。

違法な兼業を続けていた河内久男元副市長。昨年3月までの7年間に、総額2億5000万円以上の報酬を受け取っていた事実が明らかになりました。そのうち1億7000万円は、川辺堀之内区画整理組合の理事長相談役として受け取っていた報酬です。

## 公文書を偽造した脱税行為

その上で中野市議は、区画整理組合が行った税負担を補填する、特別損失補償に重大な問題点があることを追及しました。

土地区画整理事業では、移転等に伴う損失補償金に關して「公共事業用資産の買取等証明書」が発行されます。これは確定申告の際に税務署に提出され、税の軽減措置を受けることができます。

この仕組みを使い、損失補償金でもない河内元副市長など、個人所得の税負担分に対する「買取等証明書」が発行され、税の軽減措置を受けていたことを明らかにし、これは「買取等証明書」という公文書を偽造し、税負担の軽減を図るといふ違法行為であると指摘しました。

これに対し担当部長は、「このような組合の実態は不当なものであると認識している。東京都とともに、全容解明して

「必要がある」と認識している」と答弁しました。

## 工事請負で談合疑惑浮上

さらに、区画整理組合が発注する工事請負に関する入札にも、重大な疑惑があることを明らかにしました。

区画整理組合による工事入札は都合20回行われ、それぞれ4社から10社が入札に参加していました。ところが、最初の1回を除く19回すべてが、A社とB社の2社のみで代わる代わる落札されています。しかも後半15回の落札率はすべて99%以上となっています。

中野議員はこの実態を明らかにし、これでは公正な入札が行われていたと言えず談合の疑いがある。徹底調査が必要だと追及しました。

担当部長は「現時点で規定に基づかない業者数での入札に基づかない業者



## <写真で見る南平と平山の今昔>

### 平山村との境だった今の南平9丁目 真根郷（まねごう）・高橋家の木造茅葺の家

北野街道から以前あった「多摩テック」に通じる道路、その坂道がほぼ直角に曲がる所がここ「真根郷」です。現在の南平9丁目34番地周辺です。「真根郷」は高橋家の屋号ですが、この付近の6軒が真根郷村と呼ばれていたとも言われています。

この住宅の所有者の高橋さんは、合併前ここは「七生村南平田中1864」だったと、昔の住所を空（そら）で覚えていました。左の古い写真はその「真根郷」の風景で、昭和30（1955）年頃の撮影です。<清水守男著（伝承・わが街の歴史・南平の昔）から> 〇右の写真は、古い写真と同じ場所です。建物は鉄筋コンクリート造に変わっていますが、地形は昔のままです。（2020年3月撮影）。



## 「指摘のとおり、全力をあげて解明に取り組み」（市長答弁）

数での入札や入札業者の偏り等も確認しており、契約行為全般についても、東京都とともに解明を進める」と答弁しました。

中野議員は最後に、実態が明らかになればなるほど、市の責任、市長の責任は重大だと指摘し市長の認識をただしました。

市長は、「いろんな法律等にもとづいてご指摘をいただき言われるとおりのことばかり。これまで組

合施行への指導はやってきたはずなのに、さまざまなチェックをし、指摘された問題を解明することができず、そういう形で行わせてしまった責任は極めて重大であると認識している。

ましてそれが、日野市の元副市長2人による仕業であるということは、極めて恥ずべきことであり遺憾。自身の監督責任を痛感している。

今後、「ご指摘いただいた問題をすべて東京都とともに徹底的に調査し、ウミを出し、必要な法的対応も行っていく覚悟であり、全力をあげて解明に取り組みんでいく」と答弁しました。

## 《次回無料法律相談》

日野市役所 6階 共産党控室 午後1時～3時  
5月14日（木）お申し込みは下記へ。

清水とし子事務所 042-582-1042

「みどりと清流」の読者を紹介して下さい。

対象は、平山、南平、平山公社住宅にお住まいの方。毎月無料でお届けします。

しんぶん  
**赤旗**

日刊 月3497円 日曜版 月930円  
短期間のお試し購読。一部売りも。

お気軽にお申し込みを。中野あきと事務所